

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願ひいたします。

◆市長

よろしくお願ひします。本日は、話題、9月補正予算の概要を早速お伝ひいたします。今議会に提出する補正予算の規模は、一般会計が約95億6,200万円の増額、特別会計が約21億7,600万円の増額、総額では約117億3,800万円の増額、9月の補正予算の規模としては、一般会計、総額ともに政令指定都市移行後、最大となります。もうすでに財政局から記者レク受けているとは思いますが、私から今回の予算、肝ですね、三つの柱がある、すなわち、「新型コロナウイルス感染症への対策」「原油価格、物価高騰等への対策」そして、「賑わいの創出」です。柱ごとに主な取り組みを紹介いたします。

一つ目の柱、新型コロナウイルス感染症への対策については、国がオミクロン株に対応した新たなワクチンについて、10月中旬以降追加接種する方針を固めました。そこで、本市でもこの動きに連動して接種体制を確保してまいります。また、保健所の職員に代わり医師などが自宅療養者の健康観察を行う静岡市独自の在宅ドクターサポート事業について、当初の想定よりも対象者が増えていることから、その増加分の経費を計上いたします。

二つ目の柱としては、6月補正予算に続き、原油価格、物価高騰等への対策であります。まず製造業や運輸業、農業者、福祉施設など、電気料金や燃料費などの高騰の影響を大きく受けている業種の事業者に対して、年間の価格高騰分を支援します。加えて、市内の宿泊業者の皆さんが実施する誘客事業への助成を実施するとともに、観光庁の補助を受けて宿泊施設等の高付加価値化に取り組む事業者の皆さんに対する助成も実施します。

三つ目の柱は、賑わいの創出です。まず、「まちは劇場 TRY'22」について、春フェス、夏フェスと多くの方にご賛同いただき、当初の想定よりも多数のイベントが実施され、消費活動促進の契機となっております。秋以降も公民連携で賑わいの創出を図るため、イベントの主催者に対する奨励金の総額を増額していきたいと考えています。次に、令和5年のNHK大河ドラマ『どうする家康』の放送、大河ドラマ館の開館をきっかけとした地域経済活性化策の看板商品とすべく、家康公ゆかりの地から採取した酵母を活用した、仮称、家康公ビールの開発・商品化に向けた経費を計上します。『どうする』活用推進協議会を中心に、

静岡大学や市内の醸造所と連携し、産学官連携で令和5年5月の発売を目指していきます。さらに、松江市観光振興公社から新たに寄贈を受ける舟1艘を葵舟としてリニューアルするとともに、その係留場所を整備する経費も計上します。今年3月、松江市観光振興公社より舟の寄贈について打診を受け、その後、葵舟の運航事業者と協議を行ってまいりました。その結果、令和5年1月の歴史博物館のグランドオープン、そして、大河ドラマ館の開館に伴う観光需要に対応するために、この寄贈をお受けし、現在の2艘体制から3艘体制へ運航体制を強化することといたしました。結果、令和4年度の予算額の累計は、一般会計が約3,545億円、特別会計と企業会計合わせた総額では約6,736億円となりました。

補正予算についての説明は以上ですが、6月の補正予算で確保した、「Pay Payポイントが最大20%戻ってくる。静岡市応援キャンペーン」の第3弾について、お手元に資料を配付しておりますけれども、お知らせいたします。過去2回が一人最大5,000円分であったところ、最大1万円分のポイントを付与するキャンペーンが、来月1日からいよいよスタートします。市民の皆さんの生活支援と市内の店舗等の売り上げ回復支援を目的に行う事業でありますので、ぜひ皆さん、報道方よろしく願いいたします。私からは以上です。

#### ◆司会

それでは、ただ今の発表案件につきまして、皆さまからご質問をお受けいたします。ご質問のある方は、挙手と社名をおっしゃってからお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移らせていただきたいと思っております。本日はSBSさんが幹事社となります。よろしく願いいたします。

#### ◆SBS

SBSです。よろしくお願いいたします。2点お伺いします。まず1点目、8月23日の知事の定例記者会見で、川勝知事が、リニア中央新幹線の南アルプストンネル工事で働く作業員の安全確保のために、静岡市に対して、閑蔵線のトンネル整備をJR東海に働き掛けてほしい、という旨の発言がありました。これについて市長の受け止めとお考えお聞かせください。また、2018年にJR東海と静岡市が基本合意した県道三ツ峰落合線と県道南アルプス公園線をつなぐトンネル工事の進捗状況についても教えてください。お願いします。

#### ◆市長

リニア工事について2点の質問をいただきました。まず一つ目の閑蔵線の件で

すが、市道閑蔵線の整備については流域の首長さんたちからも整備を望む声があることは私も承知をしております。この市道閑蔵線は井川地区と川根本町を結ぶ道路であり、広域観光の観点からも南アルプスユネスコエコパークへとつながる重要な道路でありますから、静岡市でも平成23年度より井川側から現道を拡幅する工事を進めております。今後も利用者の皆さんが安全安心に通行できるよう、引き続き拡幅工事を進めていきたいと考えております。

従前のJR東海さんとの協議において、リニア工事における工事車両の通行ルートは市道閑蔵線と県道三ツ峰落合線が候補となりましたが、私どもは井川地区の皆さんのご要望を最大限尊重し、話し合いの結果、県道三ツ峰落合線に決定したという経緯がございます。従いまして、今すぐにJR東海さんに市道閑蔵線の整備について働き掛けすることには慎重な判断を要しますが、検討の余地があるかもしれないと考えております。

二つ目は工事の進捗状況についてですが、JR東海さんと平成30年に締結した基本合意書に基づき、県道トンネルの早期供用開始を目指していきたいと考えております。工事は令和元年から調査・設計を進めており、令和2年には工事の公募を開始、令和3年には工事契約を締結したところであります。そして、令和3年12月からは、玉川側からトンネル本体工事と必要となる迂回路や工事ヤードなどの準備工事に着手しています。井川側では令和元年から協議を進めている県との保安林解除などの法令手続きの完了に伴いまして用地取得に着手しており、工事は予定どおり進んでおります。今後もJR東海さんと協力し、早期の供用開始を目指してまいります。以上です。

#### ◆SBS

すいません、続けてもう一つ伺います。新型コロナの感染についてなんですが、県中部のコロナ病床の使用率、先週あたりまで90%を超える日があるなど、感染拡大収まる気配なかなかありません。感染者数で見ますと、今回の感染期というのになっておよそ1カ月経ったわけですけれども、現在、静岡市内で新型コロナに関する影響で最も深刻と捉えているものは何でしょうか。また、市として感染拡大に歯止めをかける施策として考えているものがあれば、教えてください。

#### ◆市長

まず一つ、最も深刻に考えているのは、やはり医療提供体制の逼迫であります。現在、市内のコロナ病床の使用率は90%程度で推移しておりますが、実質的には、ほぼ満床の状態が続いております。一方、職員の感染などによるマンパワー不足も生じております。一部の病院では、救急患者の受け入れや一般医療を制限

せざるを得ない状況にもなっています。静岡県が県内全ての病院に対してコロナ病床の確保を要請したことを踏まえて、本市としても院内感染予防対策の情報提供等を行うことなど、これまでコロナ患者の受け入れを行ったことがなかった病院に対する支援を行っていきたいと考えております。

次に、歯止めをかける施策についてですが、感染者を早く見つけて、できるだけ他人にうつさない行動を取っていただくことが重要だと考えています。そこで、お盆期間に設置し、多くの方々に受診をいただいた発熱専門外来を、国から配布される抗原検査キットを活用しながら、来月上旬を目途に再度設置できるよう、医師会の皆さんと目下、協議を進めているところです。また、接種がお済みでない若い世代で感染者数が多いことから、若者世代を対象とした臨時の集団接種会場を設けるなど、市として可能な限りの接種の機会を設けてまいりますので、ご希望される方は、ぜひ早めの接種をお願いいたします。以上です。

◆司会

それでは、ただ今の幹事社質問に関連するご質問を、まずは皆さまからお受けしたいと思っております。大きく2点いただきましたので、最初にリニア工事に関わる道路工事について、ご質問がある方はお願いいたします。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。閑蔵線について、JR東海に働き掛けるのは慎重な判断要するけれども検討の余地はあるかもしれないと微妙な言い方をなさいましたが、検討の余地というのは、どういった場合なら要請も考えられるということなんでしょうか。

◆市長

これが合意形成のプロセスに資することがあるのであれば、これは検討の余地があるんじゃないでしょうか。

◆NHK

閑蔵線をリニアの工事の車両の通行には使わないけれども、JRさんでやってくださいというのは、どういうことでしょうか、地域貢献の一環としてということでしょうか。

◆市長

おっしゃるとおりです。やはりJR東海さんはトンネルを工事用に使いたいと

ということでもありますので、その要件は満たしておりますので、JR東海さんは、これはなかなか厳しい課題だというふうに思っております。しかし、安全確保、強化をするという点ではそういうこともあり得るかもしれません。これはまだ私自身JR東海さんから現状について伺っているわけではありません。コストの面もあるでしょう。慎重な検討が必要だというふうに思っています。

◆NHK

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。それでは、コロナ関連のご質問がある方はお願いをいたします。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。市長の最大の課題は医療体制逼迫とおっしゃいましたが、今注目されている患者の入力、全数把握の件についてはおっしゃいませんでしたけれども、現状、医療体制の逼迫状況に比べれば、そういった入力の問題は、それほど大きな負担とは考えてらっしゃらないということなのか、ご認識お聞かせください。

◆市長

そうですね、これは実務的に陣頭指揮を執っている保健所長から現状について説明させますが、まず保健所設置市から見直しに当たっては県が意見を聴取することとされていますので、私どもとすると、医師会などの関係機関と協議をしながら、県に対して本市の考え方をしっかり伝えていきたいと思っております。補足お願いします。

◆保健所長

保健所長の田中でございます。今、全数把握に関する保健所業務、医療機関のほうの業務、その逼迫状況について、ということでお話しがあったかと思いますが、まず、大変でないというわけではないんです。これはこれで、現在1日1,000件近い、場合によっては2,000件近い入力を求められる日がありますので、それはそれなりに業務上大変なものなんですけれども、ただ一方で、当市におきましては、例えば医師会からの情報提供に関しましては、無理にHER-SYSを使わずに、紙ベースのFAXで届けていただく、で、その分、医療機関のほうで行うHER-SYSの入力作業を保健所のほうで、職員、あと、国費のほうで

雇い上げの経費もいただいていますので、そういった方々に入力作業をお願いする。また、入力作業についても、HER-SYSの画面、意外と入力しづらいんですが、これあまり多くの自治体でやってない可能性があるんですけども、Excelで入力してCSVファイルで保存してアップロードすれば入ってしまうんです。そういったところもやはり電子化の中で、できるだけ分散入力をした上で一括してアップロードするやり方であるとか、いろいろと医師会側のほうも、そういったHER-SYSの入力ない代わりに、今言った発熱外来の設置であるとか、そういったところで医師でなければできない業務に特化をしてやっていただくとか、いろいろと工夫を重ねながら、たくさんの発生届に対応ができるようにということやっておりますので、今のところ、大変ではないわけではないんですが、なんとか対応ができていますと、そういう状況であるということでご理解いただければと思います。

#### ◆NHK

分かりました。その全数把握見直しについては、具体的には、数は報告してもらうけれども、HER-SYSへの入力は重症者リスク高い人だけという運用については、宮城県の村井知事が早々と、今月末、今日、明日から、もうそれに沿った対応をするとおっしゃる一方で、静岡県含め多くの県が現状維持も含めて検討されてるようですけれども、静岡市としては県との協議の中で積極的に全数把握を取りやめたいということは、おっしゃるつもりはないということ間違いありませんでしょうか。

#### ◆保健所長

あくまでも、今、市長からもお話しありましたように、今回の手続き論からまずいくと、都道府県単位で、まず知事がこれは最終的にご判断される、これに関しまして保健所設置市の意見を聞くということになっています。で、市としてどういう意見を申し上げるか、これについては医師会も含めて、これからしっかり話し合った上で決めていきたいと考えています。

#### ◆NHK

これを機会に、田中所長、先週来から全数把握やめた場合のデメリットを方々でコメントされてるようですので、その考えも聞かせていただけますか。

#### ◆保健所長

はい。まず、この法律の建て付けの話からいきますと、以前、伝染病予防法的时候は、やはり隔離という警察行政中心の法律体系だったんですが、現在の感染

症予防法になりまして、やはり単に隔離だけでなく、患者さんに対する医療の提供であるとか、人権面の配慮であるとか、そういったところも含めて、届け出をいただいた上で必要な医療が必要な方にはサービスを提供していくといったようなこともやっているわけです。ただ、その中で、今回の見直しに関していきますと、重症者だけという話になってしまいますと、本来の目的である、感染予防であるとか、まん延防止であるというところが、少しこの情報が来なくなってしまうということがどうかというところで、これは私どもだけでなく、多くの自治体においても指摘されているところだと思います。ただ、それは、やはり疾患のタイプであるとか、そういったものを見た上でどこまでやるのか、という判断がありますので、そういったところも含めて、全数把握しなければ、まん延防止ができないのかどうか、そういったところも考えていく必要があるのですが、現在の2類相当という枠の中が残っている限りは、基本的に2類の疾患に関しては、診断時点で人の集団から離れていただくということを求められている疾患のタイプになっている状況ですので、これに合わせてさまざまな医療の支援であるとか、あるいは在宅なりを行うときの支援で、ある程度仕組みができていますので、そういったところとのコンフリクトを起こさないようにしなければいけないというふうに考えています。

だから、そういうことがちゃんとできるのかどうか、いずれ国のほうも、その辺りは整理して、全国統一にできることを示したいということで伺っておりますので、今の状況においては、とにかく本当に困ってできないところの緊急措置だ、ということも言われていますので、今言った諸々のことをしっかり医師会も含めて関係者と協議しながら、最終的には市長のご判断もいただいた上で、県のほうに意見を提出したいと考えています。

#### ◆NHK

ありがとうございます。では改めて、市長会見ですので、市長から、今回の国の、都道府県、政令市の意見を聞きながら都道府県の判断でHER-SYSへの入力緩和できるという、この投げ掛けについて、どう捉えて、どう回答していくべきだろうとお考えか、お聞かせください。

#### ◆市長

まず、私たちは現場の最前線、住民に近いところの基礎自治体ですので、それに関わっている方々の意見を聴取して、それを取りまとめた上で県に報告をしたいと思っています。

◆NHK

市長として今回の国のやり方をどう思うか、あるいは、どう回答するべきかという考えはないですか。

◆市長

なるべく現場の負担は減らしてほしいという気持ちはあります。

◆NHK

それは、国の方針に従って、全数把握を、詳細な入力を重症化リスク高い人だけに絞ってもいいんじゃないかというお考えですか。

◆市長

一方で、所長からご説明したとおり、マクロな情報というのは入りづらくなっております。そういう懸念があります。そこの見合いの中でどうするか、というのは今後の議論でありますので、ご理解をいただきたいと思います。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。今の関連で市長にお伺いいたします。今の話ですと、現場の意見を聴取して報告を県にということですがけれども、その県への報告への大体的見通しだったり、いつ頃までというお考えはいかがでしょうか。

◆市長

そうですね、目下目下の議論ですけども、所長、なるべくスピード感を持って作業しなければいけないと思いますが、補足お願いします。

◆保健所長

はい。一応、国のほうは今月中にというようなことも言っているのですが、ただ、一つ一つ、どこかでおしり切っているという状況でもありませんので、そこはやはり医師会等と慎重に議論させていただきたい。また、影響については、医療機関、保健所だけでなく、やはり診断を受けた後の市民一人ひとりの方も、例え



ば医療証明どうなるんだとか、医療費の負担どうなるんだとか、あるいは療養中の支援ってどうなるんだとか、そういった影響もありますので、そういった点もやはり市民の目線から、この決断をすることによって困る人が出てこないのかどうか、その辺りもやはり慎重に考えていきませんと、結論というのはすぐには出せないと思いますので、決して時間かけるつもりありません。できるだけ早く結論出していこうというふうに考えてます。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございました。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、幹事社質問関連以外の、その他のご質問を皆さまからお受けしたいと思います。

では、すいません、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。よろしくお願いいたします。先日8月21日の本紙朝刊で、駿府城にかつて駐屯していた日本陸軍が奉っていた石柱が野ざらしになっている、という記事を報じさせていただいたんですけど、まず、その野ざらしになっている状況を、市長がご存じかどうかというところと、あと、今後の保管のご予定というのがあるのか、ちょっとお伺いしたいです。

◆市長

御紙の記事で私も知るようになりました。歴史博物館がオープンして、そして、近現代史、静岡市の、それを子どもたちに伝えるということも重要だということ、今、指示して、作業中であります。その中において、この件がどんなふうに位置付けられるのかということについて、都市局と観光交流文化局と局間連携しながら結論を得ていきたい、というふうに思っております。今日は都市局が同席してるのかな。

まあ、そういうことでありますので、ご理解をいただきたいと思います。

◆中日新聞

関連で、今後保管に向けてどのようなことがハードルになってくるかということ、市長お考えでしょうか。

◆市長

まだ事実を承知をしたばかりですので、これからの議論でありますけれども、現状について都市局から少し説明いたします。

◆中日新聞

郷土史家とか、当時の当事者とかそういった方々から保管の声が上がってきて、じゃあ今議論は始まっていて、今後どのようにしていくか調整中ということでしょうか。

◆市長

そうですね。何か追加説明があればお願いしたいですけど、今のところはまだないですか。はい、分かりました。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。静岡マラソンについてお伺いします。春の会見で、私、市長にお尋ねしたところ、できるだけ継続を前提に検討、努力を重ねたいというご回答でしたが、先日23日に、早々と当面休止するという決定をなされました。理由のところに財源の問題も書いてありましたけれども、これは、やはり財源不足というのが最大の理由なのでしょうか。

◆市長

理由はいくつかあります。それもありますし、また、マラソンという過酷な競技、命を預かる主催者として、コロナ禍の現況に鑑みても慎重にならなければいけない、いろいろな総合的な見地から、この判断とさせていただきます。

◆読売新聞

すいません、私ちょっと調べてみたんですが、政令指定市の中でフルマラソンないしはハーフマラソンをやらないのは静岡市と広島市だけなんです。他の全ての自治体がコロナの中でもそういった対策に万全を配慮しつつ、日曜日も北海道マラソン行われましたけど、やっているところです。

静岡マラソンの参加者はたぶん半分以上は県外からの参加者で、これはいわゆる交流人口の拡大という意味では、かなり貢献しているのではないかと思うのです。ハードで人をひきよせるのも一つですけれども、こういったソフト的なイベントで、続けてやることも検討されてもいいんじゃないかと思うんですけれども、これは例えば、先日、実は商工会議所でも同じ質問させていただいたんですけれども、かなり赤字が、コロナ対策をすると拡大する見込みで、それを市が補填するという話もないということなんです。これ、例えば、市のほうでそういった、マラソンにも予算をつぎ込んで、そういう交流人口の拡大を図るような試みを、今後検討されるおつもりはないでしょうか。

#### ◆市長

おっしゃるとおり、フルマラソンというのは交流人口の拡大に大いに貢献してくれたというふうに私は理解をしております。一方で、マラソンだけではなくて、静岡市は主体的に、安倍川花火から始まって、コロナ禍の中においても、やはりそういう交流人口を拡大するというイベントは、できる限り開催の方向性で検討していました。静岡市としては、大道芸のワールドカップも今年開催をするという予定でおります。マラソンだけがコンテンツではないと思います。そのことをまずご承知の上で、他の政令市がどうかということではなくて、静岡市は静岡市の独自の考え方でイベントを開催すればいいと思います。それからもう一つ、やっぱりマラソンについては、共催の一つが静岡市であります。経済界、商工会議所、静岡朝日テレビ、いろいろな方々が関わって実行委員会を構成しておりますので、そういう議論の中でこういう結果になったということ、静岡市とすると受け止めたいということでもありますので、ご理解をお願いします。

#### ◆読売新聞

今後、数年以内に、例えば、また前向きに開催される可能性というのはないんでしょうか。

#### ◆市長

スポーツを通じたまちづくりということ、これから4次総に位置付けていきたいというふうに思っておりますので、直営というのは、これ、なかなか難しいイベントであります。何らかの形でそんな機運が盛り上がったなら、それは前向きに検討していきたいというふうに思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。日経新聞さん、お願いいたします。

◆日本経済新聞

日本経済新聞です。補正予算についてなんですが、補正予算の中で、原油高と物価高騰対策で、原油高と物価高騰対策に予算を割いておりますが、その中で、支援する対象について、いわゆる貨物事業者であるような、そういうものと、福祉関連のものに限った支援にしたところに対する理由をお聞かせ願えないでしょうか。

◆市長

詳しくは財政局長から補足をしておりますけれども、支援対象の業種や単価の計算方法、いろいろあります。そういう流れの中で、きめ細かく現場の意見を聴取して、われわれとして立案したものであります。追加に何かありましたら補足、お願いします。

◆財政局長

財政局長の大石です。今お話しがあったのは、対象を貨物と福祉ということだけということでしたが、見ていただくと分かるように、今回、電気、燃料、ガソリン含めて、中小製造事業者、それとか、一般廃棄物、公共施設、公共交通の運行事業者、あとは農業者、そういったところで幅広く支援をさせていただくということにさせていただいています。それぞれの局が各業界から意見を伺って、特に影響が大きく出ている事業者を、幅広く抽出させて、支援させていただいたというつもりでありますので、よろしくお願いします。以上です。

◆日本経済新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。今日、消防局長もお見えのようですが、呉服町の火災から、消防隊員亡くなった火災から半月ほど経ってますけれども、現時点で、消防隊員が亡くなるに至った原因、あるいは再発防止策について、分かったこと、消防局内で他の隊員に周知したことなどあるようでしたらお聞かせください。

◆市長

まずは、痛恨の極みだったということ、もう一度私から申し上げたいと思います。消防局長から説明させます。

◆消防局長

消防局長の秋山です。ただ今、原因と再発防止ということでございますけれども、まず原因が、まず火災の原因については、皆さんもご承知の3階からの出火ということで、付近、燃焼が激しいところに、タバコの吸い殻があったということで、タバコに起因する火災原因調査を今、進めているところでございます。

もう一つ、事故の隊員が殉職した原因につきましては、現在も隊員等から聴取しまして、当時の活動状況を、今まとめているところでございまして、原因については、まだ現時点では判明しておりません。

それから、再発防止策につきましては、火災翌日に各署の消防署長を集めまして、当時の分かっている範囲の説明、それから、今月25日に、やっぱり署長を集めまして、その時点で分かっていることを各署長に知らせまして、そこから考えられる再発防止、そちらのほうを徹底しております。以上でございます。

◆NHK

すいません、再発防止策として、こういったことを周知されたのか、お聞かせください。

◆消防局長

今時点で考えられるものとして、やはり当時の状況、そちらのほうを報告しまして、そこで、具体的にどうのこうのではなくて、考えられるもの、例えば、進入時の注意事項、または活動時の注意事項、そういったものを指示したところでございます。

◆NHK

例えばロープを必ずホースとは別に持っていくようにとか、そういったことは何か周知されたんでしょうか。

◆消防局長

ロープの関係でございまして、警防活動基準のところ、ロープの使い方、こちらのほうがございまして、屋内進入時のこちら、原則としまして、確保ロープの設定、照明器具などの資機材の携行など必要な措置を講じることなどが

記載されています。こちらのほうを再徹底するように伝えております。

◆NHK

どうして、それが守られていたのかどうか、守られていなかったのだとしたらどうしてなのかということは、何か判明してるんでしょうか。

◆消防局長

当時の状況を今、聴取しているところでございますので、まだ、そちらのところまで至っておりません。

◆NHK

質問の角度変えますが、吉田町のレックの火災、去年7月でしたか事故調査委員会の報告書が出たと思いますけれども、それがまだ公表されてませんが、これについては、消防局内、消防隊員の中では、その中身、周知されてるんでしょうか。

◆消防局長

事故調査委員会の報告書自体は、幹部の職員には配付しておりますので、幹部の職員は承知しておりますけれども、各隊員までは実際、その物を見てはおりません。

ただし、2年前、事故が発生した後から、必要な物、逐次事故調査委員会で、最終的には報告は今年の7月ですけれども、その途中途中で、いろいろな提案を受けましたので、研修とかそういったものを踏まえて、やっているところでございます。

◆NHK

例えば、あのとときの報告書がより隅々まで周知されて、実物も読めるような状態であれば、今回の火災とは形態が違うとはいっても、より隊員の安全意識が高まって殉職が防げたということは考えられないんでしょうか。

◆消防局長

そういうことがないように、報告が皆さんに公表ができないという事実がございましたので、そういうことがないように研修を手厚くやってまいりました。

◆NHK

今年の7月の時点でも確か消防部長さんから、報告書は警察の捜査に支障が出ない範囲で何らかの形で公表したいという考え、示していただいたように記憶

してますけれども、その後の検討状況いかがでしょうか。

◆消防局長

まだ警察の捜査が続いているところでございますので、公表の時期については、まだ目途が立っておりません。

◆NHK

消防部長さんのコメントは、警察の捜査に支障がない範囲で関係機関と連携して何らかの形で公表したい、というものだったと思いますが、結局、捜査が終わるまで何も公表しないということなんですか。

◆消防局長

そちらのほうは警察の捜査機関と調整しております。

◆NHK

捜査が終わるといのがどこを指すのか、検察による起訴段階なのか、公判等々終了、公判というか、そういった裁判等々司法手続きが終わった段階なのか分かりませんが、途中段階で何らかの形で公表するということは何か考えてないんですか。

◆消防局長

そこは捜査機関と協力してやってまいります。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。関連しまして、今のやつで、吉田町の工場火災、今回の火災と状況が全然違いますし、火災形態も違いますけれども、一人隊員が亡くなったという状況は変わらないと思うんですけれども、いまだに調査報告書が公表されていないという状況に関しては、まず市長は適切だと考えているのか、不適切だと考えているのか、いかがでしょうか。

◆市長

最も大事なものは警察との連携であります。捜査機関が、しかしながら、私たちが公表したくても、そこは控えてほしい、慎重にしてほしいというのならば、この連携を優先したいと思っています。

◆テレビ静岡

分からないんですけれども、ここにいらっしゃる方も警察担当、たくさんしている記者多いと思いますけれども、これを公表することが、どのような捜査に支障をきたすと県警から言われているのでしょうか。

◆市長

消防局長。

◆消防局長

具体的には私どもも聞かされておりません。

◆テレビ静岡

ですよ。のはずです。これを出したところで捜査に支障なんて、たぶんきたさなはずですから。だから、市側からもっと、ここまで公表したいんだけど、もっと能動的な姿勢を示せば出せるところ、今のNHKさんの質問じゃないんですけれども、多々あるはずなんです。そういう意味でいくと、市側の姿勢というのがすごい問われていると思うんですけれども、そこら辺いかがなんでしょうか。

◆市長

消防局長。

◆消防局長

捜査機関に協力するという、私どもの義務がございますので、今、そちらのほうで対応させていただいています。

◆テレビ静岡

そうじゃなくて、消防として捜査機関に協力するのは当たり前で、そりゃあ、亡くなっている人がいるんだから当然なんですけれども、この第三者委員会が出した報告書を世に公表することが、どのように捜査に支障をきたすのか、どのような部分までだったら大丈夫なのか、能動的に聞いてないわけですよ。



警察を理由にすればいいって思っているんですよね、どうせ。どうせ、世の中もマスコミも警察の捜査に支障をきたすと言っておけば問題ないという、そういう考えだから、こういうことになるんじゃないですか。1ページも出さないみたいなの。

◆消防局長

問題がないとかというものではなくて、私どもは本当に警察と協力をしているところです。

◆テレビ静岡

警察に協力しているのは分かりました。大体、協力するのは当然です。当然なんですけれども、だから、その報告書において、どこまでが出せるのかというすり合わせをどこまでしたのかとか、これを全編出すことがどのような捜査に支障をきたすのか、細かく確認していないから、こういうことになっているんじゃないですか、という投げ掛けを私はしているわけです。

◆消防局長

そちらの公開ですか、個人情報公開条例の関係については、今、必要部局と調整しています。

◆テレビ静岡

個人情報開示とかそういうことではなくて、調査書の話をしているわけで、そりゃ、個人名隠す、隠さないはそりゃあると思いますけれども、調査報告書の概要全般のことについて、私は言っているんですけど。

◆消防局長

個人情報等含めて、そういったところも合わせて、必要部局で今、調整しています。

◆テレビ静岡

だから、そうなりますとね、警察が捜査に支障をきたすと言っていると言っていますけど、じゃあ、そんな確認してないわけですよね、結局どこがどのように捜査に支障をきたすっていうことを、消防としては。

◆消防局長

すいません、私のところには、その調査のどこまでが支障をきたすということでは、ちょっとまだ報告受けていません。

◆テレビ静岡

そういうところから市としては直したほうがいいんじゃないですか。

◆市長

局長、もし実務的にそれをやっている部長なり課長なりいたんだったら、彼らから詳細についてやはり説明をするべきだというふうに私は思います。

◆テレビ静岡

この調査書については、調査委員会が市長のところに当時出しにきたときもかなり押し問答になった記憶があるんですね、私も取材していて。で、その時も同じことをみんな言っていたはずなんです。捜査に支障をきたすからっていうよく分からん理由突き付けられましたけれども、どこがどのように支障をきたすのか、全部きたすわけがないはずだから、そこを調べろという話をしたはずなんです。で、そこから1年経って、で、結果こうなっているわけで、消防としての姿勢が問われていると思うんですけど。

◆消防局長

今の時点で、ほんとに捜査に協力しているということしかお答えできません。

◆テレビ静岡

捜査に協力しているのは当然なんで、それは分かったんで、だから、この1年、何も公表に向けてしてこなかったのも、もうちょっと警察と、どこまで公表できるんだ、別にこれを公表したからって、こないだの火事で殉職された方がいたのか、いなかったのか、それは誰にも分かりません、正直。ただ、姿勢の問題を私は言っているんです。消防としての、事故を起こさないという。

◆消防局長

今、現時点でどこまで警察とそういった調整ができているかというのは、また確認させていただきます。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に、じゃあ中日新聞さんいいですか。

◆中日新聞

中日です。今の火災に関連して、今月、先月ありましたけど、9月末に事故調、

設置してという話があったと思うんですけど、今後、調査・検証がなされて、来年の1月末を目途に結果を公表する、で、現時点で公表の、皆さんの、公表するおつもりがあるのかどうか、レックみたいに、県警の捜査があるので、と言って、また公表されないということだったら、この事故の教訓は何も生かされないと思うんですけど、どのようなところなのか、お伺いしたいです。

◆市長  
消防局長。

◆消防局長  
ちょっと先ほどのレックの調査と関連するんですけども、レックの火災につきましては、すいません、レックではないです、吉田町の火災につきましては、公表することが影響がある、ということで警察から受けております。で、今回の呉服町での火災については、今のところ警察からそういった指示等はありません。

◆中日新聞  
今のところ今回の呉服町の火災については、レックの事故調の調査報告書は公表されないというのは県警からの捜査依頼があったからということで、今回の事故に関しては公表されるおつもりはあるということですか。

◆消防局長  
現時点では、警察からそういった指示がございませんので、公表していくと  
考え、思っております。

◆中日新聞  
ちなみになんですけど、別に県警からの指示があった、なかったとか関係なく、消防は基本的に公表するおつもりがあるということでしょうか。

◆市長  
指示があったとか、なかったではなくて、イコールパートナーですのでね、静岡市消防局と県警は。これは連携して、きちっと議論をしていると、私は今、思っています。そのことについて、私もこれからこのことについて、レックのことについて、どのくらい調整をしているのかということ、市長として聞かなければいけないというふうに思っています。

◆中日新聞

今、市長がおっしゃるとおり、イコールパートナー、対等のところでご意見を交わされているってことであれば、「県警からの捜査依頼があるからレックは調査報告書を公表できない」というのは、完全に唯々諾々、県警の意見をそのまま流用しているだけかなと思われるので、ちょっと、また姿勢を見せていただきたいな思います。

◆司会

他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

すいません、話題変わりますが、前回の会見で聞ければ良かったんですけど、今月開かれたサッカースタジアムの検討委員会で、今、市民の意見を聞くアンケートを行われていますけれども、その質問項目について、大阪成蹊大ですか、菅文彦委員から、新しいサッカースタジアムがいるかいないかという質問を入れるのは怖い、という発言がありました。これは市長も同じ考えでしょうか。

◆市長

私は、検討するという前向きな姿勢で議論を進めてほしいというふうに思っています。

◆NHK

いる、いないの質問はする必要がない、すべきではないだろうという…

◆市長

市民の皆さんから大きな期待もございますし、また、現アイスタが老朽化でJ1ライセンス基準に満たないという中長期的な見通しもありますので、これは前向きに検討を進めてほしいというふうに、私からはお願いしてあります。

◆NHK

分かりました。そして、今年度は候補地を決めるとして、建設費をどう考えるのかについて、現市政の考え方を市長選挙前にはっきり伺いたいのですけれども、費用について市長は、公民連携で臨みたいとおっしゃってますけれども、エスパルスの親会社は、新スタジアムをぜひ造りたいという前のめりな意欲はこれまでのところ見せておらず、現時点では資金面の負担も積極的に負う意向はないらしいということは、おそらく市長もお聞きになっていると思います。また、

別のエスパルスのある重要なトップパートナーの企業も、スタジアムは今のままでいいんだと。それよりもお金は福祉の充実に使うべきだ、という信念をお持ちの経営者の方がいらっしゃる、これもおそらく市長はご存じだと思います。こうした清水区のトップクラスの企業から費用面の協力が、このまま得られなくても、市長は、行政で、公費で、税金でスタジアムを造るという強い決意を、今、お持ちなんですか。

◆市長

全く持っていません。これは、民間の主導でスタジアムを建設してほしいと。それを私たちがどう下支えができるのか、というふうな問題だと思っています。民有地だったらなおさらです。

◆NHK

今、民間の主導でという、主導という言葉まで聞いたのは初めてだったんで、市長のお考えは一つはっきりしたなとは思ったんですけども、つまり、来年選挙が終わってから、いや、市は候補地の選定までしたんだけれども、民間がお金を出してくれないからスタジアムができないんだと、民間企業のせいにして、スタジアムの具体化を棚上げしてしまうということにはならないでしょうか。

◆市長

現時点で軽々な発言は控えますけれども、まずは検討委員会の帰着点を、私自身確認した上で、民間の皆さんとも、その財政フレームワークの話をしていかなければいけないというふうに思っています。

◆NHK

念押しで伺いますが、これは先日の創生静岡さんの要望のときに私も認識したんですけども、総合計画策定に向けた市民意識調査、昨年行われた調査の中で、サッカースタジアムという個別の文言はなかったにせよ、市民負担と行政サービスのあり方について、いわゆるハコモノ建設などの公共事業を減らし他の行政サービスを充実させてほしいという回答、選択肢が一番多かった、4割に上ったと。このことは市長も意識した上で、サッカースタジアムも、アリーナも、海洋文化施設も、何でもハコモノを造ればよいと考えてるわけではないというご認識はお持ちですか。

◆市長

もちろんです。やはり財政規律を守りつつ、どうやって静岡のまちづくりをしていくかという、バランスは大切だというふうに思っています。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

それでは、目安の45分を超えましたので、本日はここまでとさせていただきます。